

目 次

口 絵

発刊のことば

例 言

原始・近世編

第一章 原始時代

第一節 総 説

一 翡翠の玉	一
二 はじめて池田町に住んだ人たち	五
第三節 池田町の遺跡と遺物	三
七	一

一 池田町の遺跡

二 山野に生きる—縄文の世界—	七
(一) 縄文時代の人びと	三

(二) 縄文時代の人びとの食べ物	五
(三) 衣服など	六
(四) 縄文の家	七
(五) 道具と器	八

二十七	元
二十八	七
二十九	三
三十	二

(内) 精神生活.....	三	(一) 大穴里.....	夫
(七) 繩文時代の終焉.....	元	(二) 前見里.....	夫
三 稲の実る村—弥生の世界—.....	四	(三) 川手(明科)里.....	夫
(一) 稲を作る—その食生活—.....	四	(一) 麻績郷.....	夫
(二) 住所と衣服.....	四	(二) 青柳里.....	夫
(三) 器と道具.....	四	(三) 日岐里.....	夫
(四) 精神生活.....	五		
(五) 弥生時代の終焉.....	五		
第二章 古 代.....	五	第四節 古氏族と古墳分布.....	八
第一節 総 説.....	五	一 古氏族.....	八
第二節 郡の成立.....	六	(一) 安曇氏と安曇部.....	八
一 安曇郡とその範囲.....	七	(二) 日置部氏.....	八
二 更級郡(関係部分)とその範囲.....	七	二 古墳の分布.....	九
三 鬼の釜古墳.....	七	(一) 松本 南安曇の古墳.....	九
(一) 墳 丘.....	七	(二) 大町北安曇地方の古墳.....	九
(二) 内部構造.....	七		
(三) 石室に使われている岩石.....	八		
(四) 出土遺物.....	八		
第三節 郷の所属とその範囲.....	九		
一 前科郷.....	九		

(五) 築造年代	一一〇	(一) 大穴庄	二七
(六) 被葬者の問題について	一一三	(二) 前見庄	二八
		(三) 野(秀)原庄	二九
第五節 古社寺	一一四		
一 古 社	一一四		
(一) 川会神社	一一四		
(二) 日置(岐)神社	一一四		
(三) 大穴神社	一一六		
(四) 押野の八幡宮	一九		
二 古 寺	一〇		
第六節 古代の交通路	一三		
一 東山道	一三		
二 地方への道	一四		
第七節 郷の分解から国衙領と	一五		
庄園とに分化	一五		
第三章 中 世	三		
第二節 庄園と武士	三五		
一 庄園の発達と地頭	三五		
(一) 矢原庄	二九		
(二) 大穴庄	三三		
(三) 前見庄	三三		
二 建武中興と仁科氏の動向	三七		
三 大塔合戦	三七		
四 仁科氏とその支族家臣団など	四一		
(一) 仁科盛家	四一		
(二) 仁科盛遠	四一		
一 国衙領	二六		
(一) 日置(岐)郷	二六		
二 庄 園	二七		

(三) 池田氏	一至	四 小笠原氏の再興と池田町	一七八
(四) 庄(正)科氏	一至	(一) 小笠原貞慶深志城の回復	一七八
(五) 宇留賀氏	一至		
(六) 大日向(庭・方)氏	一至		
(七) 関 氏	一至	一 穂高神社造営に参加の郷村	一四五
(八) 堀之内氏	一至	二 諏訪神社の造営に参加の郷村	一九一
(九) 渋田見氏	一至	三 仁科神明宮造営助力の奉仕	二〇〇
(十) 鵜山(仁科)氏	一至		
(十一) 丸山氏	一六		
(十二) 袖山上野助	一六		
(十三) 中山加賀守	一六		
(十四) 中島氏	一六		
五 荘園の經營と市場	一六		
第三節 戦国の乱れ	一九	第五節 御秋くぱり日記	二〇一
一 総 説	一九		
二 信濃国内の形勢	一九		
三 小笠原氏・仁科氏没落と武田氏の統治	一三	第六節 布目瓦窯跡	二〇六
(一) 小笠原氏 仁科氏の没落	一三		
(二) 武田氏の統治	一三	第七節 城館跡と塚	二二
		一 城 館 跡	二二
		(一) 池田山古城地	二二
		(二) 花岡山城跡	二二
		(三) 中島山古城地 <small>(白駒)</small>	二二
		(四) 白駒ノ古城地	二二
		(五) 滝沢古城地	二二
		(六) 渋田見山古城地	二二
		(七) 鵜山古城地	二二

目 次

(八) 北山古城地	二二
(九) 北山古城地(中山城跡)	二三
(十) 寺村山古城地	二六
(十一) その他	二六
二 古城跡実測図	二八
三 池田町の塚	二九
四 池田町城跡・塚分布図	三一
第八節 土と水からみた池田町の開発	三七
一 開発史解明の観点	三七
二 概観	三八
三 村々の成り立ち	三九
(一) 池田地区	三九
1 高根川・町川による中世の計画開発	三九
2 池田／3 宮本入作／4 正科／5 堀之内	三九
(二) 会染地区	三九
1 中島／2 半在家／3 相道寺／4 花見	三九
5 滝沢／6 渋田見／7 林中／8 内鍊	三九
9 十日市場	三九
(三) 七貴地区	三九
四 広津 陸郷地区	三八
1 概観	三八
2 村々の成り立ち	三八
天池・天崎 日影 八代 清水・宮ノ平 有明 小実平・日向 法道 平出 坂森 庄山 榆室・正ノ田 梅ノ尾 桃ノ木平・神足崎 峯之在家、鍛冶屋・栗本 池ノ平・堀越 菅ノ田 前田	三九
第三章 近世	三九
第一節 総説	三九
第二節 藩主の変遷	三九
一 石川氏	三九
(一) 石川数正	三九
(二) 石川康長	三九

二 小笠原氏	(一) 小笠原秀政	三九	(二) 戸田光雄	三九
(一) 小笠原忠真	(二) 戸田光徳	三九	(三) 戸田光悌	三九
(二) 戸田康長	(四) 戸田光和	三九	(五) 戸田光行	三九
(一) 戸田康直	(六) 戸田光年	三九	(七) 戸田光則	三九
四 松平氏	(八) 戸田光庸	三九	(九) 戸田光則	三九
(一) 松平直盛	水野・戸田家における御用金	三九		
五 堀田氏	冥加糲の附加状況	三九		
(一) 堀田正盛	付 松本藩職制概要	三九		
六 水野氏		三九		
(一) 水野忠清		三九		
(二) 水野忠職		三九		
(三) 水野忠直		三九		
(四) 水野忠周		三九		
(五) 水野忠幹		三九		
(六) 水野忠恒		三九		
七 幕府直轄		三九		
(一) 戸田(松平)氏		三九		
(二) 戸田光慈		三九		
八 戸田(松平)氏		三九		
九 幕府直轄		三九		
(一) 戸田(松平)氏		三九		
(二) 戸田光雄		三九		
(三) 戸田光徳		三九		
(四) 戸田光和		三九		
(五) 戸田光行		三九		
(六) 戸田光年		三九		
(七) 戸田光則		三九		
(八) 戸田光庸		三九		
(九) 戸田光則		三九		
第四節 村々の発展		三九		
一 池田町を中心とした隣接町村の		三九		
郷村沿革(別紙付録)		三九		

二 村々の歩み	四〇三
(一) 池田組村々の概要	四〇三
(二) 池田組村々の開発	四三
三 村治め	四六
(一) 村方の役人	四六
(二) 村小役	四〇
(三) 村定め	四三
(四) 御触書	四六
(五) 高札	四五
(六) 五人組	四九
(七) 鉄砲改め	四〇
第五節 戸 口	四六
一 概 説	四六
二 宗門改めと宗門改帳	四六
三 寺院の宗門改め	四七三
四 宗門改めの実施	四七五
五 縁組証文	四八四
六 奉公人の勤め	四八六
七 高齢者の割合	四八八
八 宗門帳に表われた家族の形態	四九一
(一) 町の大家族	四九一
(二) 村の大家族	四九三
(三) 一戸の家族	四九五
(四) 田地分けと分家	四九六
九 五人組の編成	四九七
十 結婚年齢	四九九
十一 子どもの数	五〇〇
十二 婚姻範囲	五一
十三 年齢別の人口構成と	五〇一
年齢構成・人口推移	五〇三
第六節 土地制度	五一
一 田畠の開発	五一
(一) 檢 地	五一
(二) 檢地の掻	五二
(三) 天正検地	五二

(四) 慶長検地	五五	(三) 年貢の納付	五三
(五) 寛永検地	五五	(四) 年貢割付状(免定)	五七
(六) 慶安検地	五六	(五) 年貢破免願	五六
(七) 新切検地	五〇	(六) 年貢の収納	五〇
二 林野と入会山論	五四	(七) 御藏預り証文	五〇
(一) 概 説	五四	(八) 御年貢納払通	五二
(二) 袖山争論	五四	(九) 年貢皆済連印	五六
(三) 眠山の入会山論	五四	(十) 年貢高の移り変わり	五六
(四) 風塩餓鬼沢の山論	四〇	二 課 役	五五
(五) 中川原の為取替規定	四五	(一) 夫 役	五五
(六) 塚田山入会山論	四五	1 普請の夫役／2 屋丁／3 国役金	五五
(七) 馬労(馬羅尾)山々論	四六	4 屋丁銀／5 川除御普請	五五
(八) 松川村清水山の山論	四五	6 御役人、御出役／7 追鳥狩	五六
(九) 山持と山を持たない者の山論	四五	8 宮本御造営／9 助郷	五六
(十) 八幡原と百駄島の出入	四五		
第七節 貢租・課役	五五		
一 松本藩の貢租	五六		
(一) 本 稅	五六		
(二) 雜 稅	五六		
第八節 产 業	六八		
一 農 業	六八		
(一) 稲 作	六八		
1 新田の開発／2 肥料の使い方	六八		
3 年間農作業／4 稲虫の防除	六八		

(二) 養蚕業	1 桑の植付 / 2 養蚕 / 3 製糸 / 4 馬鳴講	六一
5 糸行司と糸師		
(三) 煙草		六一
1 煙草の伝来 普及 / 2 煙草の栽培		
3 牛宿 / 4 たばこの輸送とその出入		
5 刻貢仕法 / 6 収穫量と耕作者数		
7 たばこの値段		
(一) さままざまな生業		七七
(一) 酒造業		七六
(二) その他の生業		七五
(三) 水車かせぎ		七四
(四) 荷商いと店商い		七三
(五) 池田町村「町札」		七二
(三) 塩荷物		七一
(一) 塩と生活		七〇
(二) 連上塩と鑑札		六九
(三) 加州塩購入		六八
(四) 御用塩附払割当		六七
(五) 塩問屋(塩商人)と塩値段		六六

第九節 交通運輸

一 仁科道と池田宿		七七
(一) 仁科道		七七
(二) 仁科道と池田宿		七六
二 池田町の主な里道		七五
(五) 架橋		七四
(六) 番所と通行手形		七三
(七) 送り書と添送り書		七二
二 中馬		七一
(一) 概説		七一
(二) 中馬の通路		七〇
(三) 中馬の様相と利点		六九
(四) 中馬の争論		六八
一 中馬の終り		六七

(内) 越後糸魚川往還と中馬	八二	二 山崩・山抜大変	八四
(七) 池田宿の扱い荷	八三	三 火 災	八五
(八) 方面別扱い荷	八四	(一) 池田町村の火災	八六
(一) 歴史と伝承	八五	(二) 中之郷村の大火	八七
(二) 登波離橋の掛替	八六	四 地 震	八八
(三) 藩主の登波離お越し	八三	(一) 地震略年表	八九
(四) 登波離橋と文学作品	八七	(二) 弘化四年大地震(善光寺大地震)	九〇
(四) 地震につき	八九	(三) 水没への恐怖	九一
一 水害と川除御普請	八六	五 餓 饉	九三
(一) 度重なる水害	八六	(一) 寛永の飢饉	九三
(二) 川除御普請	八三	(二) 天明の飢饉	九三
1 池田町村水押川除／2 内鎌村西切込川除	八六	(三) 文政八年の凶作	九〇
3 高瀬 犀川満水川除／4 寄御普請扶持	八七	(四) 天保四年の飢饉	九三
(三) 用水堰普請	八七	(五) 天保七年の飢饉	九七
1 岡堰御普請／2 新堰御普請	九一	六 救 恤	九九
3 五カ用水堰普請	九一	(一) 囲穀と救恤	九九
(四) 沢除普請	九〇	(二) 囲金と御救	九三
1 池田組村々の沢／2 沢除御普請	九三	(三) 社倉勧諭	九三

(四) 御田藏の建設と教訓	九八六
(五) 駒改め	九八七
(六) 奉公人給金	九八八
(七) 五尺六寸の男	九九三
(八) 伝染病の治療	九九三
(九) 生活に活かした和算	九九五
(十) 御賞	九九六
(十一) 書物の買求め	九九八
(十二) 米大豆の相場	九九九
第十二節 幕末の動き	一〇〇六
一 ベルリの来航	一〇〇六
二 和宮御降嫁と池田組	一〇〇七
三 軍夫と農銃隊・農兵隊	一〇〇八
(一) 軍夫取定	一〇一〇
(二) 軍夫の徵用	一〇一〇
(三) 農銃隊 農兵隊の募集	一〇一四
四 度重なる御才覚金	一〇一五
(一) 文久二年御才覚金	一〇一五
第十一節 日常生活	九六〇
一 生活の規制	九六〇
二 着物	九六二
三 食べ物	九六四
(一) 慶安の御触書	九六四
(二) 寛政の御触書	九六四
(三) 宗門改め役人の接待	九六五
(四) 農家における祭の料理	九六七
(五) 農家の暁	九六八
四 住居	九七〇
(一) 農家	九七〇
(二) 町家	九七四
五 さまざまな生活	九七六
(一) 水に対する信仰	九七六
(二) 有穀取調べ	九八三

(一) 長防御征伐ニ付御才覚金	一一六	(五) 豊田利忠著『善光寺道名所図会』	一七〇
(二) 慶応四年の御才覚金	一一五	(六) アーネスト サトウ『サトウ日記』抄	一七一
五 鉄を使う仕事	一一〇	二 歌人 内山真弓	一七五
(一) 刀鍛冶	一一〇	三 歌人 関春江	一九三
(二) 大砲の铸造	一一〇	四 彫刻家 平林金四郎	一九三
第五章 教育・文化・信仰	一〇七	第三節 信 仰	一九四
第一節 教 育	一〇九	一 明治の宗教行政	一九五
一 池田学問所	一〇九	二 廃仏毀釈と神葬祭改典	一九七
二 私塾 寺子屋	一五二	三 神社と寺院	二〇三
三 心 学	一〇六	(一) 神 社	一〇三
第二節 文 化	一〇〇	2 各神社	
一 紀行文に見る池田	一〇〇	1 序説	
(一) 僧似雲『更科紀行』	一六一		
(二) 菅江真澄著『来目路の橋』	一六一		
(三) 十返舎一九『続膝栗毛』八編下巻	一五五		
(四) 井出道真著『信濃奇勝録』	一五五		

第六章 民 俗

神明宮、諏訪社（三郷）、樹玉神社、金刀比羅社、大日向神社、神明宮諏訪神社	二九〇
(一) 池田町の小宮	二九〇
(二) 寺院	二九三
1 序説	二九三
2 各寺院	二九三
來鳳山成就院、聖向山攝取院淨念寺、金勝山長福寺	二九三
その他の寺院	二九三
常光院、地藏堂、大穴山泉福寺、道光山法洞寺、遍照山林泉寺、福聚山正泉寺	二九三
池田町の堂	二九三
(四) 池田町の石神 石仏	二九三
(六) 札所めぐり	二九四
(七) 修 驗	二九五
四 近現代における新しい宗教	二九五
(一) 泉小太郎伝	二九五
(二) 登波離落とし白駒伝承	二九五
花見長福寺伝承	二九五
第一節 総 説	二九三
一 地誌と村々の成立	二九三
二 人々の生活と文化と信仰	二九三
三 人の一生と通過儀礼	二九三
四 歌謡・童歌・芸能	二九三
五 伝 説	二九三
六 方 言	二九三
七 文化財	二九三
第二節 各 編	二九三
一年中行事	二九三
二 通過儀礼	二九三
三 衣食住	二九三
四 民間信仰	二九三
五 民間芸能	二九三
六 伝 説	二九三

(四) 久兵衛分	一三六
(五) 塚 古墳	一八八
(六) 净光院 薬師如來の手	一三九
(七) 池 沼	一八九
七 方 言	一三〇
八 農村の年中行事	一四六
九 池田町の家号	一四三
別紙付録 池田町の地名・道路・用水路網図	
年 表	一四三
編纂委員・執筆者分担名簿	一四五
あとがき	一四五
刊行会名簿	一四五